

海文橋乃為系 下

和書門類			
一	八	九	七
二	三	三	函
三	冊	架	九

內閣文庫			
二	函	一	〇
二	冊	架	〇
二	冊	架	〇

內閣文庫	
番號	和 18987
冊數	3 (3)
函號	212 133



雙樹落葉卷之下

道祖神



諸國村の前凌まゝに道路に山神とて石に彫り祀まらるる世俗大山祇とて誤
りてハ岐神なり神代紀いささかの神建絶妻之誓の件に投其杖自此
以還雷不敢來是謂岐神本號曰果名戸之祖神又曰経津主神以岐神為郷道
周流削平してきて古説にハ来莫處ハハ経莫處の美と守古事記に船
戸神とてハハ文字を傳へり口決纂疏等に是を道祖神也と註せしむ
る道祖の字ハ漢國の名あり當りて字典云祭道神曰祖祖者祖也和
名抄ハ岐神をハハの神道祖神を之の神道神をハハむけの神と別々

伊勢 淺草文庫
谷川士清原閱

今 名嶋政方著述

らまゝして同神に神を一村の前後に祀りて疫神瘴氣等の是より守りて
の疾を治すに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
ほうなきを治すに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
山のいづきを治すに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
其の坂の上より又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
其餘を治すに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
ゆゑに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
のまゝに又りてを奉りては多人をさへ神に極く又る疾の
野群載云出京關門奉幣道神事道郷祭祝詞云大八衢亦湯津磐村之如塞
坐皇神等之前亦申之八衢比古八衢比賣又那斗止御名者申之辭竟奉波八衢亦湯
津磐村之如塞坐皇御孫命乎堅磐亦常磐亦齋奉奉茂御世亦幸給止申云云
神祇令曰謂卜部等於京城四隅道上而祭之言故今鬼魅自外來者不敢入京師

下ノ一

故預迎於路而饗過也一云一村の前後又ハ道上に祭ると云ふは
岐神一して大山祇一して大山祇をも祭ると云ふは大山祇をも祭ると云ふは
別ちてその伝説一或人の説に又那斗神を道及之大神と云ふは誤り
神代記をいふと云ふは誤り

敏太神社

神名式云伊勢國壹志郡敏太神社和名抄云壹志郡民太_三乃_一又りて神名式
今の印本に_一た_一偽字のゆゑに誤り敏太_一觀及漢音ひん呉音じん民彌_一邦及
漢音ひん呉音じんけ二字同音して呉音を借用ひたり諸國郡郷名及社号等に
文字の音を借くる例多し按_一海_一ふ_一ぬ_一め_一の_一神_一と_一り_一万葉集に敏馬浦と云ふ
神名式に同國八部郡汝賣神社とて汝字もじん_一の_一書_一を_一り_一て_一ぬ_一め_一の_一神_一と_一り_一
ゆゑに敏字に同一和名抄の時代よりぬめを_一り_一て_一ぬ_一め_一の_一神_一と_一り_一美濃國を_一り_一
唱へり濃字日本記に_一て_一ぬ_一め_一の_一神_一と_一り_一用ひての_一用_一を_一り_一て_一ぬ_一め_一の_一神_一と_一り_一野_一角

忍藤樂が〜唱へて中古りの〜唱〜来り〜を〜松坂の西〜ゆ〜美濃田村の神
社が〜〜こり北畠国家の卯月三日の〜ゆ〜を面す〜馬の上〜時鳥をす〜
駒〜ゆ〜待か〜ゆ〜玉は〜の尾のり傍の山か〜ゆ〜先年美濃田村へ往ては神
社をぬ〜本居神社の地〜ゆ〜こり〜小祠の朽換〜ゆ〜三社ゆ〜何共
別ちか〜その傍〜信樂寺〜ゆ〜小菴ゆ〜往て住僧〜古き修〜又ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ん〜ゆ〜昔ハ小菴なるハ傳教大師の開基〜ゆ〜七防を神社ハ地護神攝姓の
人祇宜は奉〜潔齋の地を塩浴川〜ゆ〜今記〜沙彌堂〜ゆ〜其、余語〜ゆ〜本居
神の〜ゆ〜古く〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜に寶永年中〜記〜ゆ〜ゆ〜敏太神社
の〜ゆ〜す〜永録の比け〜ゆ〜ゆ〜兵變〜焼失〜ゆ〜ゆ〜詳さ〜ゆ〜神
名帳考證云敏太神社在戸木村之西称風速社〜ゆ〜今神社も現然〜
〜祝部も仕奉〜ゆ〜是さ〜ゆ〜美濃田村ハ須賀〜ゆ〜戸木村ハ民太〜ゆ〜
〜ゆ〜ハ名を〜社号〜ゆ〜社号を〜ゆ〜名〜ゆ〜

下ノ二

風速ハ後〜名〜地名なり〜考證も〜ゆ〜の偽字を用いら〜ゆ〜敏
〜速〜茂理同〜ゆ〜ゆ〜の説〜ゆ〜ハ誤〜ゆ〜但〜據ゆ〜ゆ

比佐豆知神社

神名式云伊勢国安濃郡比佐豆知神社ハ建部郷塔世の西北〜今愛宕権現
〜称〜是〜ゆ〜比佐ハ執の訓豆知ハ野趣駒遇突智〜ゆ〜豆知〜ゆ〜祇之神の御
名〜称〜こり古事記云二神因河海持別而生神云次天之水分神次因之水分神
次天之文比耆母知神次因之文比耆母知神〜ゆ〜久比耆母知ハ汲執持の茂〜ゆ〜
水神〜鎮火祭祝詞云神伊佐奈岐伊佐奈美乃命妹背二柱嫁継給〜ゆ〜因能八十
因嶋乃八十嶋乎生給〜ゆ〜八百萬神等乎生給〜ゆ〜麻奈弟子尔火結神生給〜ゆ〜美保
止被燒〜石隱堅〜云吾名妹命能所知食上津因〜心惡子乎生置〜ゆ〜来
宣氏返堅氏更生子水神執川菜塩山姫四種物乎生給〜ゆ〜此能心惡子乃心荒〜ゆ〜水
神執塩山姫川菜乎持鎮奉〜ゆ〜止事悟給〜ゆ〜比佐豆知ハ水神〜ゆ〜愛宕軒

遇突智の荒い多きをたしつらふは是火防神之始を世俗愛宕火結神を火防神
と云ふ誤りなりと比佐豆知神社を愛宕と誤く火結神を祭る御心の
荒い多しひる多し其の多しは鎮火祭なりと神名帳考證に火雷神と云ふ
ハ其神代紀一書云伊弉册尊生火産靈時為子所焦而神退矣其且神退之時
則生氷神罔象女及土神埴山姫又生天吉葛又生天吉葛ハ孰也ト正通の
まじり

湯立

今世諸国郡郷の本居神の廣前ニ大釜熱湯をこく祢宜或ハ修験者
身してきかたを御湯を上りてけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
ハ其の探湯より始り来りてや久しきことありけり探湯の日本紀應神の
御卷ニ武内宿祢を身の日美内宿祢と云ふてけり養老ニハ磯城川のかきりて探
湯をたしをたしけりけり武内宿祢ハ身つてけり勝多しと云ふ探湯

ハ足がけの湯を熱くしきかたを御湯をこくは其の人の身もやまら
なりけりけりハ燒たけりけり是湯起請の始也後世の鉄火
各盟神探湯云云弘仁私記云坐甘檀五令探湯定眞偽大和国高市郡在
釜是也ト云ふは本居神社の廣前ニ熱湯をこくを祢宜或
ハ修験者ハ産子ニ代りてけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
の犯過る罪咎なき赤心をけりけり神の御心をいさめたり諸の災を
除き疫癘悪氣を拂ひ朝夕をけりけり守りさきけりせりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
いた之り神行をも御湯をけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

煤拂

けり内裏式に云ふすまは中世後のことや近世年中行事云常御殿四位

五位雲客藏人等勤之御縁側青侍勤之男居衛士勤之清凉殿極藤
衛士勤之一西土一臘月二十四日每家拂塵一閩書漳志を引て又
又王氏志云臘月二十七日拂屋塵曰除残一も又一今の世我御国一け
月吉日をえ一ひて一又中旬を一例一か一も一さ一新造の家
其年煤を一寸一ひ一東鑑云嘉禎二年十二月六日御煤
拂事有相論文元朝臣申云新造者三箇年之内可有其憚云云親職暗
賢朝臣之先達者雖無指文皆所記置也至新造者無煤之故毀之由
被仰出之間各不申子細也一又一の一又一六一き一た一

地獄の沙汰も金次第

世俗に俚諺ありハ病堂策云寧波の一小民張斌一者一崔尚書一廊
房に住蒲鞋を織て業一寸性修行を好一長齋念佛一剪下寸鞋
の鬚を一念佛の数を記一籠一入置毎歳除々地藏殿前一杖一既

下ノ四

数十年一及一適崔尚書發背和名抄云瘡俗能背を病死一冥土一至一爛王眼を怒
平日の悪を一崔云能我を一て一娑婆一廻一善を行一罪を贖一爛
王云汝畜所の錢用一汝一廊房の民張斌金銀あり念佛壹万を替来一罪
解一九人齋戒至心の念佛一声ハ金銀一散心の念佛一声ハ銀錢一多一
て一放一娑婆一廻一崔獲り張斌を呼て云汝一積一念佛の
う一壹万及一金錢一万を一買一金を與一券を一僧を請一回向一て
其券を焚一衆消て崔一瘡全一愈一張斌其人金を一一大橋を造り其
余金を一復一菴を建一衆を撰待寸一現果隨錄卷五一記一り
是僧の妄談か一是一り一諺言一か一を一た一わ一

布衣津武

今俚語一富一家一を一王元室一富屈を一便一り一富一家一殿
を一初一民部郷藤原忠文

邑より巽一里さうりに日河てふも 或人云け所石窟の口の狭くして中一尺九尺二寸に六
代既居多ひし今も碑及び社五社六を始其餘の人々の碑とて板を
を文学の建たをてかて俗にゆり文学の上を考ふるも 隠岐西へ流さるる
うけ所一末さうりさうり寸又さうりさうりさうり寸又太郎生村と日
河とていふ所は山さうり小浜のむき鳥獣の多のそとむらうり ハこのまてき
深山さうり一菴ゆり大悲山仲禪寺とて真言宗とて二十石の寺領今も在す
うや其邊に碑ゆり延慶三年庚戌十月とて其末八寸土中へ埋まて所
も文字の形をさうり知かていりいさまけ所のさまむらうり ハ人の末さうり
ゆり ハ平家の舎敷 延慶とて供養の為一字を建立し碑をも建立さうり
之 森本村 日河も是小川かかんさうり津より西さうり二里さうり 産品村
とていさうり ウニカ 塚とて是平忠盛の誕生所といひ傳ふ 産品 ハこのまてき
ハ ウニカ 生所の跡とて ウニカ 神鳳抄安西郡の産階御園とて是兼之

御定の時忠盛誕生の地名を用ひらるる ハ又産品ハ古名也 詳なり寸

葬儀 附七之日

和事始云纂疏云上古葬禮なり孝子慕親を以て親の尸を掩ふ是葬禮の禮なり
て起る ハ此 則葬禮の時に始り ハ西土の 我御国ハ神代より
け ハ古事記 醜男命の件 ハ其妻 須世理毘賣者持喪具而哭来 ハ又
元神代紀天稚彦の葬儀云以川鳥 ハシ 持頭者及持帚者 ハ一云以鶏為持頭
為 ハ一云乃以川鳥為持頭者亦為持帚者以鶏為持頭者 而八日八夜啼哭
悲歌云云 ハ神代 式ハ孝徳御宇に定む ハ後
その ハ又續紀 天應六年六月云昔纏向珠城宮御宇垂仁天皇世古風尚存葬禮
無節每有凶事例多殉埋于時皇后薨梓宮在庭帝顧問群臣曰後宮葬禮
為之如何群臣對曰一遵倭彦王故事 ハ神代 遺風 ハ 之 ハ
之 ハ 儒典の渡り彼土に往來を ハ 儒法を用ひ佛法を相加て今の ハ

後白河法皇百年忌の御追善の爲に十七年之世上打つき兵乱よりして今
 まて延引く南朝紀傳の又さきまに延引はかききりてまじりて年忌の和
 車始云釈瑞溪相國寺の僧一切經を檢閲し了云け經の内二年忌服記のく曾て
 かり故に佛者儒法をかりて用之といふ事ありていふまじりて葬儀木の儒佛
 混雜して初を又まじりてやめん

雙樹園藏版

下十九

十ニキノオチハハシガキ
 雙又樹落葉端書

コノフミハモヨイセヒトナシニクスシ
 此書者毛與伊勢人名島醫師

ガトホツアフミクニノクリダノヒデマロニヒト
 賀遠江國乃栗田土麻呂迹一

トセナガツキノナガキヨスガラカガリケ
 年長月廼長支夜須賀良語祁

ルグサグサノコトトモフカキツメタフルフミ
 琉種種能事等乎書集多流書

ニナモアールコハコノオキナノニチヒノワサ
 尔奈毛在留此波此翁乃學業

尔^ニ意^オ伎^キ互^テ波^ハ五^イ十^サ篠^メ目^メ迺^ノ事^{コト}爾^ニ波^ハ雖^{アレ}有^ド此^コ乎^ラ見^ミ
氏^テ奈^ナ母^モ其^{ソノ}學^{マナヒノ}業^{ワサ}能^ノ博^{ヒロ}交^キ厚^{アツ}支^キ事^{コト}
袁^ヲ婆^ハ諸^{モロ}人^{ヒト}母^モ知^{シリ}奴^ヌ倍^ベ伎^キ抑^{ソモク}翁^{オキナ}者^ハ
本^{モト}渡^{ワタラ}會^{ヒテ}政^{セイ}範^{ノリ}乃^ノ末^{スチ}子^コ迹^ニ互^テ弱^{ウヒ}冠^{カブリ}
迺^ノ頃^{コロ}用^ヨ理^リ

下ノ光

大^{オホ}皇^ミ國^{クニ}風^フ乃^ノ學^{モノマナヒ}問^ヲ乎^イ伊^イ多^タ玖^ク好^{ヨシ}
互^テ谷^{タニ}川^{ガハノ}士^{コト}清^{スガ}尔^ニ學^{モノマナヒ}為^セ理^リ復^{マタ}京^{キョウ}爾^ニ
出^{イテ}氏^テ弥^{イヨク}其^{ソノ}業^{ワサ}乎^ヲ聞^キ朋^{アキラ}来^メ都^ツ都^ツ傍^{カタヘ}
迹^ニ波^ハ漢^{カラ}藉^{ブキ}乎^ヲ毛^モ博^{ヒロ}久^ク見^ミ互^テ甚^{イト}母^モ
弥^{メツラ}斯^シ伎^キ物^{モノ}知^{シリ}迹^ニ奈^ナ母^モ在^{アリ}祁^ケ琉^ル然^{シテ}
留^ル尔^ニ其^{ソノ}為^{ヒト}人^{ナリ}名^ナ能^ノ遍^{アヘネ}久^ク廣^{ヒロ}吳^ゴ理^リ

天^テ教^{ヲシ}子^コ等^{トモ}乃^ノ多^{サハ}尔^ニ集^{ツト}比^ヒ未^ク流^ル事^{コト}
乎^ヲ良^ラ伊^イ美^ミ嫌^{キラ}比^ヒ氏^テ五^イ十^リ岁^チ餘^ニ乃^ノ
頃^コ保^ホ比^ヒ國^{クニ}爾^ニ歸^{カヘリ}互^テ壹^{イチ}志^シ郡^{ヨホリ}迺^ノ大^{オホ}
邨^{ハラ}心^ト云^フ里^{サト}尔^ニ籠^{コモリ}住^{スミ}支^キ然^{シカ}波^ハ羅^{アレ}有^{トモ}
磨^{ミガキ}成^{ナシ}多^タ琉^ル玉^{タマ}乃^ノ光^{ヒカリ}波^ハ斯^シ可^カ須^ス可^カ
尔^ニ荒^{アラ}金^{ガネ}迺^ノ土^{ツチ}爾^ニ混^{マシヨラ}受^ズ互^テ我^{ワガ}

下ノ九二

君^{キミ}伊^イ風^{カゼ}能^ノ音^ト能^ノ遠^{トホ}音^ド迹^ニ聞^{キカ}志^シ氏^テ
甚^{イトモ}母^{オム}攸^{カシ}感^{タメ}給^ヒ比^テ互^{トシ}每^ハ年^ニ尔^ニ黄^ク金^{ガネ}
乎^ヲ賜^{タマ}比^ヒ大^{オホ}城^ギ迹^ニ家^{イハ}人^{ヒト}迺^ノ後^シ列^{ツラ}尔^ニ
呼^{メシ}互^テ御^ミ前^{マヘ}迹^ニ拜^{オロ}謁^{ガミ}為^セ斯^シ米^メ給^{タメ}比^ヒ
互^テ殊^{コト}尔^ニ厚^{アツク}久^ク慈^{メクミ}給^{タメ}比^ヒ看^{カヘリ}給^{タメ}伎^キ如^カ
此^ク慈^{メクミ}給^{タメ}比^ヒ看^{カヘリ}給^{タメ}志^シ加^カ婆^バ國^{クニ}内^チ乃^ノ

人人母大村乃醫師止恭支此
 醫師名波政方乃名波桃源
 登奈毛云奈流吾先年尔壹志
 郡廻郡奉行乃職尔任左延互
 大村迹在祁琉時春日秋夜能
 暇乃隙善支支止交里斯事厚

下ノ九二

久深久睦魂會禮婆此一言乎
 書付都文政乃九年云歲廻十
 一月安濃津乃家人高橋知周

雙對落葉凡三卷多伊勢人名嶋之羽の
 著久ととらあり一友携へ来々々示け予れ
 を披閱久々よ其考證の精細た々無遺也
 謂つる依々閑燈の下々熟讀一更ふ一校と
 加へて幸いぬ

天保十二年癸卯十月

河喜因真考

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

下ノ凡三

